



利便性の高い静岡は、
未来型のテレワークタウンです。

浜松市在住(横浜市から転入)

ひろせ としや
廣瀬 稔也さん

愛知県出身。東京で過ごした学生時代から環境系ボランティアに携わる。平成10年(株)生活社に入社。平成14年より代表を務める。現在は2つのNPOに所属し、東アジアの環境問題や村おこし活動に力を注ぐ。



地元NPO法人ひずるしい鎮玉の収穫祭。多くの田んぼオーナーが参加しました。

「持続可能な地域づくりを实践したいという思いと、子供を田舎で伸び伸び育てたいという2つの思いがありました」。22年続けた東京、横浜での生活から、浜松市北区の農村部に1ターンした廣瀬稔也さんは、移住の理由をそう語る。現在は自然に囲まれたのどかな田舎で暮らしながら、自身が代表を務める東京のオフィスへ月に2、3回通っている。

学生時代からボランティア活動に参加してきた廣瀬さんは、今も本業である出版編集業の傍ら、2つのNPO法人に携わる。1つは、中国や韓国といった近隣諸国の地域の環境問題に取り組む団体だ。「長年そういう活動をしていても、自分の手で何かしていなければ、口だけになってしまう」。その思いを胸に移住後に地元の村おこしを推進するNPO法人にも参画。本業の強みを生かして活動に貢献し、住民からすっかり信頼される存在になっている。「田舎に暮らして不便とは感じません。静岡県の魅力は都心へのアクセスのよさ。首都圏では通勤に往復数時間もかかり、もったいないと感じていました。ネットが普及した現代は、事務所常にいる必要がない人も多いはず。そんな人が田舎で暮らせば、通勤時間を子育てなどに費やせるし、移住自体が過疎化の進む地域の手助けにもなるので、一石二鳥どころか、三鳥くらいのメリットがあると思っています」。多忙であるはずなのに、それを微塵も感じさせない快活な表情は、その言葉が真実であることを物語っている。